

ROTARY CLUB OF

KANAZAWA-NORTH



金沢北ロータリークラブ

例会日：木曜日 12:30～13:30

例会場：卯辰山・ホワイトハウス

事務局：金沢市尾山町9-13・金沢商工会議所

TEL <0762> 63-1151

会長：岡田 林太郎 幹事：釣見 栄一

情報委員長：清水 忠

1977・12月29日 第105号



“写真撮影今昔”

写真家 吉尾 開山氏

私が写真家になった発端は、三中の頃友人と当時学校にまだなかった絵画部を作った事から始まる。だから当然私は絵画になって身を立てたいと考えていたし、回りの人間もおそらくそう思っていたに違いない。しかし、勉強嫌いと貧しさから絵では飯が食えるかと心配になり写真の方に道を進めた。

東京の山手の写真館へ修業に入り、修正を勉強し又さまざまな事を学んだ。今でもはっきり脳裏に刻まれているのは、最初に手掛けた仕事である。師匠が二日酔いで私が一人留守番をしていると年の頃21か2才の丸まげの若妻で、すごい美人がお客として入って来た。私は今で云う失神しそうな気持を押えておそるおそるスタジオへ通し仕事に取り掛った。しかし、手が振え、足が振え、ドキドキする胸を自分で静める事が出来なかった。やっとの思いでポーズを決めシャッターを切った。美人が帰った後もはたして撮れているだろうか心配で夕食ものを通らなかつた事を憶えている。食事中暗室に入り現像して見た。写っているのを見て一安心したものの、何と、揃えた筈の美人の親指が、によきと立っているではないか。どうしたら良いものかと思つたが、得意の修正でなんとか修し早速住所へ届けた。私が余り新米で時間を掛けていたので、美人はじれったくなり、親指を動かしていたのに違いないと思つた。写真を受け取つたのはフランス大使館の一等書記官であつた。

戦後石川県に、なんとか写真家を増やそうと有志を集めて努力した。私達は一枚の写真に精根を傾ける様教えられ、その道に入ると、なかなか苦勞も多いものである。写真は光のマジックで光とその陰を利用して撮せば日本人の様な扁平な顔でも良く写る事が出来、日本人の場合横顔が良く撮れる場合が多く、私の写真も特に横顔が多いのもそのせいかも知れない。

—金沢北RC例会講話より— (文責 清水 忠)

日中友好・金沢市各界訪中団に参加して (2)

——私の見た新中国の一断片——

柴田 三郎

- 蘇州……ししゅう研究所、びやくだんの扇子工場、織物工場、拙政園、留園、寒山寺、虎丘など。



蘇州の扇子工場にて
中国人は繊細な加工技術に優れている。

蘇州は水の都として知られ、2,500年前の呉の首都であった。現在人口30万人、古都のたたずまい、中国の古諺に“上に天あり、下に蘇州、杭州あり”と言われた景勝の地。画に描きたいところ、シャッターを切りたい風景が随所にあり、将来、金沢市の友好都市としたい思い。

ここの刺繍は世界随一であろう絶妙の技術、びやくだんの扇子と共に忍耐の中国人ならではの感を深くした。どの名所庭園にも太湖の湖中から揚げた奇石が多く配置されていたが、日本人の趣味の石ではないようである。

寒山寺は年輩の日本人が愛唱した「月落ち鳥啼いて霜天に満つ……」の漢詩で有名。

宿舎は“蘇州南林飯店”新装で最も清楚であり、増築中であった。

- 南京……南京鼓楼区第一中心小学、梅園新村、太平天国歴史陳列館、長江大橋、中山陵、玄武湖公園、南京曲芸など。

南京は人口300万人。歴史上北京、西安と肩を並べる王城の地であり、古都である。120年前、太平天国軍が阿片戦争をきっかけに起り、天王、洪秀全が亡ぶまで18年間首都としたが、太平天国軍のスローガンは「有田同耕、有飯同食、有衣同着、有錢同使」で、中国革命の元祖とも言われる。20世紀に入ってから、三民主義（民族、民生、民権）の孫文が中華民国臨時政府をおいた。



中国が世界に誇る、南京の長江(揚子江)大橋
上段は人・車道で4,500メートル。下段は鉄道で6,700メートル。

1927年から解放まで中華民国政府の首都であった。中山陵は中国らしい雄大な規模で孫文の墓所(1925年逝去)370段の丘の上、景勝の環境に在る。1932年末(昭和7年)松井石根將軍の率いる日本軍がここを占領し、殺害された人数は膨大であったと言う。長江(揚子江)大橋は、中国が世界に誇る苦心と技術の結晶で、8年間の歳月をかけ1968年完成したが、この間犠牲者僅か3人と言われる。上段は全長4,500メートル余の自動車道と人道、下段は鉄道橋で6,700メートル余、資材も技術も労力も国産であり、中国の“自力更生”の生きた教訓とし、誇示している。

宿舎は“双門樓飯店”寝返りするたびに木製のベッドは鳴った。

- 揚州……法浄寺、江都水利センター、人民公社、漆器工場など。

揚州は南京からバスで約2時間、2,000年前春秋時代の王帝の首都で、文化の栄えた土地。今でも産業より文化、消費都市といわれるが、現在230の大小の工場があると言われ、その従業員数は7万人と聞いた。主として工芸美術で漆器、玉製品、揚州紙の生産が旺んで、人口約25万人。

揚州から約15キロの地点に1961～69年にかけて建設された“江都水利センター”があり見学し

た。大規模な水利施設で、解放前はこの地帯が洪水や海水に浸食される盆地で、2年に1回は水害に悩まされたという。マイナス6メートルのゼロ地帯（楊子江より4メートル、海面より2メートル低い）で、1931年には1昼夜にして冠水、犠牲者77,000人を出したと聞く。延1億人ともいわれる労力と現代科学を動員して完成の現在は、この水利施設によって水害を解消、広大な土地の灌漑や発電も可能になって連年豊作、なお増設中で将来は15段階でこの水を北京にまで運ぶ大計画であると説明された。“南船北馬”の語源もここで知ったが、今は“南水北調”が目標である。

法浄寺は、日中友好の偉大なる大先覚者、鑑真和上かんじんわじょうゆかりの寺、師は1,200年前、強く求められて5回に互り日本への渡航を試みたが海難によって失敗。この間、失明したが屈せず遂に6回目に鹿児島に到着。10年の歳月を要し時に66才であった。かくして奈良に唐招提寺を建立、10年間滞日して日中友好の生涯を終えたので、これを記念して1973年法浄寺に記念堂とその像が建立された。宿舎は“楊州市西園飯店”日没になっても人民公社の工場を廻っていたので、ホテルに着いたのな夜おそくであった。

ロータリーニュース 楽しいクリスマス家族親睦会

去る12月21日(木)、ホワイトハウスに於て、クリスマス家族会が華かに開催された。今回は参加者が121名と最高の記録となり、親睦委員会の趣向をこらした催物に会員家族共に時間を忘れる程に楽しいひとときであった。

しかし何よりもお互いの笑顔が一番のクリスマスプレゼントだったのでではなかっただろうか。



司会	親睦委員会
開会の言葉	親睦委員長 山上啓介君
会長挨拶	会長 岡田林太郎君
キャンドル・サービス	村田千恵さん 飯野晃子さん
きよしこの夜	全 員
サンタクロース登場	
クリスマスプレゼント	
サンタクロース	副会長 若野三朗君
乾 杯	幹事 釣見栄一君
おもちつき	全 員
委員会対抗ゲーム大会	
委員会対抗かくし芸大会	
優勝	岡田さんトリオ（クラブ奉仕）
2位	土原さんトリオ（企画）
3位	俵君（国際奉仕・例会）
努力賞	沢田君（企画）
特別賞	飯野君（親睦）
ラッキー・カード抽せん会	全 員
プレゼント交換	全 員
閉会の言葉	副会長 若野三朗君
ロータリーソング	
“手に手つないで”	全 員
万才三唱	柴田三郎君
終 了	

